

令和6年度 小中一貫校 南アルプス市立若草南小 学校経営方針

I 若草地区小中一貫校教育目標

「よく学び 心豊かで たくましい児童生徒の育成」

目指す児童生徒像

自ら学び、深く考える児童生徒（知育）  
心豊かで 思いやりのある児童生徒（徳育）  
健康でたくましい児童生徒（体育）  
意欲をもち 最後までやり抜く児童生徒（意欲）

II 学校教育目標

「学びを深め 心豊かな たくましい子ども」

具 体 目 標 自ら学び 深く考える子ども (知)  
豊かな心で 思いやりのある子ども (徳)  
体をきたえ 最後までやりぬく子ども (体)

目指す学校像	育てたい児童像
➤ 笑顔あふれる学校 ➤ 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校	➤ 人の痛みがわかる思いやりのある児童 ➤ 自分の考えをもち、チャレンジする児童 ➤ 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

若南プライド：地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める、積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

III 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。
- 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。
- 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。
- 5 特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）の充実に努める。
- 6 児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

IV 具体的な取組

1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた若草地区小中3校の9年間を見通した教育課程の編成と改善
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成  
◆中学生や園児との交流推進 ◆情報交換会の充実 ◆児童会・生徒会活動など、交流会の計画的実施
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動など横のつながりと異学年間の縦のつながりを考えた効果的な教育課程の編成

- (4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進
  - ◆地域探検や施設見学 ◆福祉体験 ◆栽培活動 ◆10歳を祝う会 ◆キャリアパスポートの活用
- (5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実
  - ◆地域教材・人材の活用 ◆体験的活動（地域学習を含む）

## 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

- (1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり
  - ◆反復繰り返し学習 ◆市単講師によるTTや少人数指導
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業づくり
  - ◆若南学習スタンダード（学習モデル・学習プロセス・学習ルール）の定着化
  - ◆問題解決的な学習展開，見通しと「対話」のある授業づくり
- (3) 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な授業づくり
  - ◆学習者が主体となる授業づくり ◆他者との協働的学習の場づくり
  - ◆端末などのICT利活用 ◆各教科の特質に応じた言語活動の充実
  - ◆外国語教育の充実
- (4) SDGsの視点を取り入れた学習活動
  - ◆自然環境，資源，貧困など地域，世界の諸活動について自らの課題として考える学習活動
  - ◆若草地区3校の児童会・生徒会との協働活動の実施
- (5) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実
  - ◆学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進 ◆一校一実践・一人一実践の取組
- (6) 家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組
  - ◆家庭学習の手引きの活用 ◆家庭学習取組強化週間 ◆主体的に取り組む学びノートの活用
  - ◆長期休業中のアウトメディアの取組◆SNS，オンラインゲームについての防犯講話実施
- (7) 高学年における教科担任制の継続
  - ◆専科教員が行う教科指導 ◆担任が交換授業として行う教科指導
  - ◆児童及び職員の状態確認と改善

## 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進
  - ◆人権尊重の理念に基づく教育活動
  - ◆話の聞き方 みとめ合い名人のアイコンタクト ①いね ②なずき ③がおおっケー  
あいづち名人 ④あなるほど ⑤いねそれ ⑥んうんわかるよへ ⑦ーそうなんだ ⑧ーすごい
  - ◆場に応じた丁寧な言葉遣い
- (2) 全ての子の居場所のある居心地のよい学級経営の充実
  - ◆所属感，自己有用感，自己肯定感を持たせる取組の工夫 ◆スリンプルプログラムの実施
  - ◆Q-Uの活用◆学校生活アンケートの活用 ◆SOSの出し方に関する教育の実践
- (3) いじめ，不登校の早期発見と迅速・組織的な対応・指導
  - ◆「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導と見直し
  - ◆いじめ調査（学校生活アンケート）の実施と活用
  - ◆ケース会議の実施と共通理解による組織的対応強化，関係機関との連携
- (4) 学校教育全体を通じた道徳教育の充実及び読書活動・音楽活動の推進
  - ◆考え，議論する道徳の推進 ◆道徳公開授業の実施
  - ◆朝読書の効果の実施 ◆図書集会の活用 ◆読み聞かせの取組 ◆歌声タイム ◆音楽会
- (5) 児童会を中心とした仲間づくり・集団づくり
  - ◆あいさつ運動 ◆縦割り班活動 ◆ボランティア活動
- (6) 集団生活のルールやマナーの徹底
  - ◆月ごとの生活目標 ◆あいさつ運動 ◆無言清掃 ◆全校集会や全校放送の活用

◆**若南プライド**「心のやりとりきちんと**あいさつ**・心を向ける**返事**・心をそろえる**くつそろえ**」

#### 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 運動の日常化による基礎体力づくり  
◆体育的行事の計画的実施 ◆「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組
- (2) 粘り強く最後までやり抜く意思を育てる指導支援  
◆体育授業の充実 ◆粘り強さを大切にした学習指導の充実
- (3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実，給食指導を中心に食育の充実  
◆たよりや掲示物，学級指導，保健集会の活用 ◆給食週間の取組

#### 5 特別支援教育の充実に努める。

- (1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営  
◆校内支援委員会の定期的な開催
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営  
◆特別支援学習会の実施 ◆ユニバーサルデザインの活用
- (3) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実  
◆機能的なケース会議開催 ◆外部の専門機関や関連行政機関との連携  
◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用
- (4) サポートルームわかくさのセンター的機能の充実  
◆校内外のニーズをもつ児童のアセスメント ◆教育相談

#### 6 児童の安全・安心を守り，家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 小中一貫校の取組推進  
◆若草地区小中3校との連携・交流 ◆地域人材の活用 ◆地域行事への参加・地域貢献  
◆学校運営協議会運営に向けての協議
- (2) 全教職員が「一致協力」，連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」
- (3) 自らの命は，自ら守る「危険回避能力」の育成  
◆地震・火災想定避難訓練 ◆不審者対応訓練 ◆救命救急法訓練 ◆引き渡し訓練 ◆交通安全教室  
自転車教室の実施 ◆起震車・煙体験の実施 ◆防犯講話 ◆危機管理マニュアルの充実と改善
- (4) 自己の健康安全に関する保健指導の徹底
- (5) 学校評価や保護者アンケートを活かしたPDCAサイクルによる学校運営，教育方針の改善  
◆自己評価・学校関係者評価の実施 ◆児童・保護者アンケートの実施  
◆行事後の教職員や保護者アンケートの実施と総括，改善
- (6) 授業参観，各種たより，HP，安心メールによる情報発信  
◆学校開放日，授業参観，学校行事への参加等教育内容の積極的公開  
◆学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行  
◆HPでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用
- (7) 学校評議員制度の効果的活用とPTAや地域との連携協力  
◆地域ボランティアの活用 ◆学校評議員会の開催 ◆PTA専門部の活動

## 令和6年度 学校評価の実施について

南アルプス市立若草南小学校

### ◆ねらい

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、学校として組織的・継続的に改善を行うことができる。また、結果を公表することによって、保護者・地域住民と情報や課題を共有し改善を進めていくことができる。(開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり) 教師にとっては自分自身の教育活動を振り返り、改善をしていくひとつのきっかけになる。

### ◆日程

○アンケートについては、教職員、保護者、児童とも GoogleForms を利用する。

○第1回職員アンケート

・7月1日(月)～7月12日(金)に実施する。

○アンケート結果の比較・考察(第1回自己評価 夏休み中)

○第3回学校運営協議会(学校関係者評価委員会)

・9月3日(火)午後 5時30分～

①1学期学校評価についての考察

②重点課題の絞り込みと取組方法

○保護者アンケート

・12月 2日(月) アンケート依頼の配付

・12月13日(金) 回答しめきり

○児童アンケート、第2回職員アンケート

・12月 2日(月)～13日(金)に実施

○アンケート結果の比較・考察(第2回自己評価)

・12月16日(月)～1月 9日(火)

○第5回学校運営協議会への諮問(学校関係者評価委員会)

・1月21日(火)

○保護者への報告

・3月 3日(月) ホームページ上で公開

○南アルプス市教育委員会へ提出

・ 月 日( )まで

## 【 評価方法 】

教職員に対して WEB 上のアンケート機能 (Google Forms) により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は、基本的に4段階になっている。

A : とても・よく~している

B : だいたい~している

C : あまり~していない

D : ~していない

(E : 対象外)

このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価として捉える。AとBのどちらを選ぶかCとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりもA・B合わせてのプラス傾向C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで A・B・C・Dの選択肢を点数化し A=4 B=3 C=2 D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価 (A・B) が多ければ、平均点は2.5以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価 (C・D) が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、自己評価まとめの表には、比較として昨年度の1学期の平均点数を載せてある。ただし、「課題・意見」として、C及びD評価をつけた場合に具体的な内容を書いてもらうこととした。

また、回答できない項目については、E : 対象外 を設けているが、これについては点数には含めないものとする。今後、保護者のアンケートにも回答の選択肢として E : わからない を設けるが、これも点数には含めない。

## 【 全体評価 】

教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも昨年度と同様に、肯定的な評価の値が高い結果となった。

令和4年度から、保護者、児童へのアンケートについては、「Google Forms」を利用してWEB上で回答する形式とした。

それまでの、アンケート用紙への記入式と回答方法が異なるため、回答内容にも影響が出ていると考えられる。評価項目については変わらないが、用紙に記入して封筒へ厳封して提出するこれまでの方法と比べると、スマートフォンやタブレットを使って気軽に回答ができること、回答方法に慣れてきたことなどの理由から、否定的回答もしやすくなっていると思われる。経年比較をするためには、同様の方法を継続していく必要がある。

児童については、1人1台のタブレット端末を用いて回答をさせたが、低学年については、操作方法に慣れていなかったり、一時的な心情だけで回答したりすることもみうけられるので、回答時には丁寧な指導が必要である。

- ・教職員アンケートの結果は、15の項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.2を上回る高い評価結果であった。
- ・児童アンケートの結果は、10の項目のうち、すべての項目で評価の平均が3.0以上のプラス評価だった。評価の平均が3.0であったのは「授業中に発言や質問または意見を言いますか」の項目であった。
- ・保護者アンケートの結果は、10の項目のうち、9つの項目で評価の平均が3.0以上のプラス評価だった。評価の平均が3.0を下回ったのは「子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている」の1項目であった。

以上のことから、若草南小学校では学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことによ

り、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかし、一つ一つの結果に目を向けてみると、有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目が各アンケートで見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について、以下の「アンケートごと（教職員、児童、保護者）の評価」で考察し課題を明らかにして改善を図っていきたい。

令和6年度 学校評価(後期) 教職員アンケートのまとめ  
 ※項目によっては職員の職務内容上合計数に違いがあります。

\* 4段階評価 A: そう思う B: ややそう思う C: ややそう思わない D: そう思わない

	番号	評価項目	評定				平均点数				課題・意見
			A	B	C	D	R6前期	R6後期	R5後期	R5R6差	
1 学校生活について	①	子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている。	73%	27%	0%	0%	3.5	3.6	3.7	-0.1	・児童会の取組がとてもよかった。挨拶をしない児童への働きかけをこれからも考えていきたい。
	②	すすんであいさつをする指導の充実に努めている。	69%	24%	7%	0%	3.6	3.6	3.6	0.0	
2 学習指導について	③	子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	62%	38%	0%	0%	3.5	3.5	3.6	-0.1	・指導方法やそれに対する熱量に差があり、学級ごとの取組みに留まっているように感じる。 ・校内研等で聞き方の学年ごとの指標や指導の仕方(合言葉等)があればどの先生も取り組みやすく、全校での指導が可能になると思う。” ・相手を見て聞くこと、手いたずらをしないで聞くことを声掛けしてきた。集中力が続かないので、これからも声掛けを続けていきたい。
	④	児童を授業に集中させるための指導(聞く態度)に努めている。	64%	36%	0%	0%	3.4	3.6	3.6	0.0	
3 家庭学習について	⑤	家庭学習を定着させるために工夫している。	41%	59%	0%	0%	3.3	3.2	3.4	-0.2	・取り組ませたい反面、課題の丸つけや評価が継続的にできない場合があり、取り組ませる方法に悩むことがある。 ・その日に学習した内容を宿題に出すことで、学習のつまずきに家庭でも協力していただけた。
4 生徒指導について	⑥	児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている。	66%	34%	0%	0%	3.7	3.5	3.7	-0.2	・指導について不適切な場合、担任も指導を受けることがあっても良いと思う。時代的に言いづらさがあるが、管理者から必要な指導や助言があっても問題ないと思う。 ・先生方に相談にのっていただき、対応していくことができた。
	⑦	生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している	59%	41%	0%	0%	3.6	3.7	3.6	0.1	
5 学校運営について	⑧	校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある。	14%	71%	14%	0%	3.2	3.1	3.0	0.1	・「適切な分担」は難しいことだと毎年思う。 ・年度始めに主任以外の分掌を決めているにも関わらず、機能していないものが多い。仕事をもっと細分化して、副主任の先生や〇〇部の先生にもふるべきだと思う。結局、主任の先生がほとんど仕事を負担してしまっている。(例えば、六送会の計画・案内は主任、スライド作りや会場作りは児童会担当など) ・校務分掌は、分担したと思います。ただ、学年の割り振りで、3年生が児童会選挙の担当になっています。音楽主任が3年生だと、同じ時期に重なってしまい、大変そうでした。 ・分掌によっては、同じ時期に大きな仕事が重なってしまっていてとても大変そうだと感じました。 ・昨年度のように、プールは外体育が担当した方がよい。体育主任の負担が大きい。
6 学校行事について	⑨	学校行事は職員の共通理解のもと、子どもたちが楽しく参加できるように計画されている。	48%	52%	0%	0%	3.4	3.3	3.5	-0.2	・保護者ファーストになる部分があり、その準備に時間や労力をかけてしまうことになり教育的な意義を見失いそうになる時がある。

7 校内研究について	⑩	校内研究会に主体的に参加し、授業力の向上に努めている。	50%	46%	4%	0%	3.3	3.3	3.5	-0.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務とバランスをとりながら進められている。支援体制については人員不足が解決されない限り難しい課題だと感じる。</li> <li>・特別な支援を必要とする児童の数が多く、職員の数が足りていないと思います。皆で連携を取り、協力し合いながら乗り切りたい。</li> <li>・もう少し、交流級の授業にも付き添うなど、支援をしていただきたい。</li> <li>・支援体制が必要なときに整っていない。逆に、支援があまり必要ないときに整っていることがある。</li> </ul>
	⑪	特別支援教育に対する校内支援体制が機能している。	50%	47%	3%	0%	3.4	3.2	3.5	-0.3	
8 施設・設備・安全管理について	⑫	安全点検を計画的に実施し、危険箇所・修理箇所の対応ができています。	59%	41%	0%	0%	3.6	3.6	3.6	0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティションの故障が危険だと感じています。</li> <li>・不審者侵入の防犯や訓練があっても良いと思う。</li> <li>・防犯に対する訓練をやった方がよい。</li> </ul>
	⑬	緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている。	38%	52%	10%	0%	3.5	3.6	3.3	0.3	
9 学校と家庭との連携について	⑭	授業参観・懇談会・部会を相互理解のために計画し、工夫・改善に努めている。	54%	42%	4%	0%	3.4	3.6	3.5	0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の時間帯等、改善が進んでいるように感じる。</li> </ul>
	⑮	保護者からの各種相談について、誠実に対応している。	81%	19%	0%	0%	3.7	3.7	3.8	-0.1	



【自由記述】若草南小のいいところ、課題となるところがありましたら書いてください。

【よいところ】

- ・子ども達が明るく、一生懸命に取り組む。
- ・子どもたちが素直なところ
- ・子供たちが素直。高学年のリーダーシップが高い。
- ・子どもが素直でよく動いてくれる。教職員同士も相談事には真摯に受け止めて助言していただける関係がとても素敵で助かっています。
- ・子供たちが素直なところ。職員が協力しあっているところがいいところだとおもいます。
- ・複雑かつ深刻な課題を抱える家庭の割合が多く感じるが、子どもが素直。学校全体の良い伝統がこのまま引き継がれていくと良いです。
  
- ・先生方が明るく元気なところ、子供たちが主体的に動いていること
- ・職場の雰囲気がよく、お互いに助け合っているところ。
- ・若い先生方をみんなでサポートできる仕組みづくりを考えられたらいいなと思います。”
- ・良いところは、先生方がとても温かいところです。困った時、辛い時に声をかけてくださるので感謝しています。また、丸つけや、プリント印刷、ITなどお願いする前に対応してくださっていてとても助かりました。
- ・いいところ、職員が協力し、助け合っている。
- ・職員同士、助け合ったり、声を掛け合ったりしているところ
- ・○先生同士の関係性がよく、自分の仕事ではなくても声をかけてくれたり、助けてくれたりする方が多く、働きやすい。
- ・◎助け合いの精神が溢れているところ
- ・先生方が真面目に、臨機応変に動いてくれている。
- ・△更に、皆で情報を共有しながら、子ども達のために一致団結して働きたい。”
- ・教師がお互いに助け合い、相談には親身に向き合ってくれるところ。先生方の雰囲気が明るいところ。

【課題点】

- ・挨拶、返事を進んでできるようにするにはどうしたらいいのか日々考えていますがなかなか効果がでないなと思っています。
- ・あいさつや、廊下の歩き方に課題がある。
  
- ・△人手不足。高学年の先生方が空きコマに補充に入っている現状に申し訳なく思います。来年もさらに欠員状態で始まる事が予想され、休みを取らせていただくことが申し訳ないと感じてしまいます。
- ・課題は人手不足です。助けてほしい時にみんな忙しくて声がかげづらい時がありました。子どもたちのなかには個別対応が必要な子が多く、これから先、もっと大変になるなあと思いました。
- ・課題はやはり人手不足。分掌も偏っているが致し方ない状況…です。”
- ・欠員が2あることは、その分の仕事を他の職員が補っているということである。職員の努力や犠牲によって教育活動が成り立っているが、厳しい状況であると感じる。
  
- ・課題、色々な考え方の保護者や子どもがいるので、それぞれに合った対応の仕方を考えていきたい。
- ・変わらず、素直な児童が多く、先生方の指導のありがたく感じる。反面無気力さを感じさせる児童も増えてきている様に見える。もう少し個々の状況に寄り添えるよう人材の活用や工夫が必要だと思う。
  
- ・集金を振込にできないか？
- ・総合的な学習の時間の所見を1学期だけにしてほしいです。
- ・「あゆみ」の生活のめあての項目が少し難しいように思います。要録の項目と合致していて整合性がとれている点ではとてもよいのですが、保護者に伝わりにくいように思います。若草小の生活のめあては、平易な文章でわかりやすいと感じたので、小中一貫校として参考にしてもよいかと思いました。
- ・教科担任制、小中一貫教育、コミュニティ・スクールについて、全職員での共通理解が図れていない。まず、それぞれ誰が中心となってどのように推進していくのか柱が見えない。保護者へのアピールもしていくべきだと思う。
  
- ・先生方が大変熱心に取り組んでいます。早朝から夜遅くまで、授業の準備や保護者対応をしています。年度当初から欠員状況が続く中、体調を崩される先生がいると、支援体制が大変厳しい状況になります。日々の教材研究の時間が取れず、ぎりぎりの状況で働いています。先生方が健康で笑顔でいられるためにも、人材確保を何卒お願いしたいです。来年度以降、児童数に応じて学級数を増やすことができるように、校内の環境整備を進めていきたいです。教員が足りない大変厳しい状況の中なので、働き方改革として、行事を精選したいです。全校で集まる委員会による集会は、教師や子ども達にとって負担がないような回数にし、取り組み内容を考えたいです。定時退勤を目指す中で、できる仕事を実行すればよいと思います。

令和6年度 学校評価（後期） 児童アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項 目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R5	R6	±	
1	①学校（がっこう）は 楽（たの）しいですか。	70%	23%	4%	2%	3.7	3.6	-0.1	多くの児童が学校生活を楽しいと感じている。これからも子どもたちが楽しく思える学校づくりを目指したい。 ほとんどの項目で肯定的評価が85%を超えている。友だちと良好な関係が気付いている児童が多いことがうかがえる。学校生活を通し協力して取り組みができていくことが分かる。発達段階に合わせ当番活動や係活動、さらには自主的な児童会活動へと協力して取り組める態度を継続的に育てていきたい。
2	②あいさつをしっかりしていますか。	50%	35%	12%	4%	3.5	3.3	-0.2	あいさつについては、児童会活動でも取り組んできたが、今後も呼びかけや活動を継続し、地域の方々へのあいさつも含め、あいさつができる児童の育成に努めていきたい。
3	③学級（がっきゅう）での係（かかり）や当番（とうばん）のしごと、そうじをしっかりしていますか。	71%	26%	3%	0%	3.7	3.7	0.0	係活動や当番活動については意識の高さがうかがえる。高学年が、下級生のよき見本となり本校の誇れる文化となっている。 高学年でC、D評価をつけている児童には、注意深く観察し、個別に対応して行くことが必要である。
4	④学校（がっこう）の授業（じゅぎょう）がわかりますか。	54%	37%	7%	2%	3.5	3.4	-0.1	学校生活の多くを占めている授業については、引き続き教材研究や指導法の工夫などに努め、わかりやすい授業・楽しい授業を目指し取り組んでいきたい。
5	⑤先生（せんせい）や友達（ともだち）の話（はなし）をしっかり聞いていますか。	73%	23%	4%	0%	3.7	3.7	0.0	授業中に発言、質問、意見を言うことについては、他の項目と比べると相対的に低くなっている。昨年度も同じような状況で、本校の課題ともいえるだろう。
6	⑥授業中（じゅぎょうちゅう）に発言（はつげん）や質問（しつもん）または意見（いけん）を言（い）いますか。	39%	33%	22%	6%	3.1	3.0	-0.1	担任は発表しやすい雰囲気づくりや発問の工夫を行うなど課題解決に努めている。児童の意見を一つひとつ丁寧に取り上げていく指導を継続する中で、「自分の考えをもつ」という意欲に繋がられるように、これまでの手段を見直すことも必要である。
7	⑦家庭（かてい）で宿題（しゅくだい）や自主学习（じしゅがくしゅう）を自分（じぶん）からすすんでいますか。	54%	35%	7%	4%	3.4	3.4	0.0	家庭学習、自主的な学習については、家庭の協力を得ながら、子供たちの意欲を高めるための具体的な取り組みを引き続き探していきたい。
8	⑧こまったとき、だれかに相談（そうだん）できますか。	55%	23%	16%	5%	3.4	3.3	-0.1	職員間の情報交換を定期的に行い、継続的に学校生活のルールの指導を行っている。児童会本部や委員会の取組と連携しながら規律ある学校生活を送れるようにしていきたい。
9	⑨学校（がっこう）のきまりや約束（やくそく）が守（まも）られていますか。	64%	32%	4%	1%	3.6	3.6	0.0	きまりや約束を守ることに、いじめを許さないことについての項目は、いずれも肯定的な評価が高い。特に決まりを守ることに95%を超えている。引き続き、道徳の授業の充実を図りつつ、保護者や地域の方々、外部機関との連携を取りながらいじめや不登校の未然防止に努めていきたい。
10	⑩いじめや悪（わる）いことをしている人を見たら、先生（せんせい）や友達（ともだち）にいますか。	57%	31%	9%	4%	3.5	3.4	-0.1	児童は、さまざまなボランティアの方々をはじめ多くの地域の方に支えられている。地域の方に支えられて安全で安心できる生活を送れている事を理解させ、感謝の気持ちが持てるように指導していきたい。

令和6年度 学校評価（後期） 保護者アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項 目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R5	R6	±	
1	児童について① ①子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。	51%	40%	9%	0%	3.5	3.4	-0.1	・肯定的評価が90%を超え、概ね良いという評価をいただいた。児童が楽しいと思えることが、学校教育活動の基本と捉えている。今後も学級づくりを中心に、教職員が一丸となって居心地のよい楽しい学校を目指していく。
2	児童について② ②子どもは、友だちと仲良く生活している。	53%	42%	4%	0%	3.6	3.5	-0.1	・肯定的評価の割合が95%である。学校教育活動全体をとおり、お互いを認め合えるより良い人間関係づくりに努めている。学級活動や児童会活動、学校行事等でコミュニケーション能力を伸ばす指導も一層充実させ、児童のウェルビーイングを高めていきたい。
3	児童について③ ③子どもは、家でも地域でもきちんとあいさつをしている。	30%	53%	15%	2%	3.2	3.1	-0.1	・A評価の割合が、30%と低くなっている。学校生活においても基本的な生活習慣を身に付けさせることは大変重要なことである。児童会活動で例年取り組んでいるが、地域へのあいさつについては、家庭の教育力も必要である。家庭や地域と連携をとりながら、一層の定着をめざしていきたい。
4	児童について④ ④子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	26%	46%	24%	4%	3	2.9	-0.1	・否定的評価の割合が一番高い項目となっている。A評価も30%を切っている。児童の家庭学習に関する項目の肯定的評価は89%となっており、家庭学習が保護者にとり課題となっていることがわかる。家庭との連携を密にし、充実した家庭学習が図れるよう進めていきたい。
5	学校について① ⑤学校は、基礎・基本の定着を図る取組や学習のつまずきなどに積極的に取り組んでくれている。	41%	52%	7%	0%	3.4	3.3	-0.1	・概ねよいという評価をいただいた。各担任を中心に教職員による支援体制を構築し、授業支援を行っている。今後も学習内容の確実な定着に向け、児童一人ひとりの学習状況に合わせた指導・支援が行えるよう努めていきたい。
6	学校について② ⑥学校は、思いやりの心や社会のルールを守る態度を育てている。	47%	48%	4%	1%	3.5	3.4	-0.1	・肯定的評価が95%と、高い評価をいただいた。居心地のよい学校生活を送るためにも教職員が共通認識のもと、同じスタンスで指導に当たっている。児童会の取り組みもあり、子どもたち同士での声掛けも見られ、意識の高まりが見られた。
7	学校について③ ⑦いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	42%	48%	8%	2%	3.4	3.3	-0.1	・今年度の道徳公開授業は、学校開放日に1時間の道徳授業を設定した。考え議論する道徳の授業作りを目指していく。道徳教育は、教育活動全体を通して行っていくことを改めて確認したい。また、お互いの考えを認め理解し合える学級・学校づくりに努め、豊かな感性を持ち多様性を認め合える児童の育成を目指していく。
8	学校について④ ⑧学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	49%	46%	3%	1%	3.6	3.4	-0.2	・高い評価をいただいた。学校の指導重点の一つである「安心・安全な学校」をめざし、施設の安全管理と安全教育に努めている。GIGAスクール構想によるICT機器の効果的な活用も含め、教材・教具の工夫も行い、わかりやすい授業、楽しい授業づくりに取り組んでいく。
9	学校について⑤ ⑨学校は、授業参観や運動会等で、子どもの様子を見る機会を設けている。	80%	19%	1%	0%	3.8	3.8	0.0	・A評価が80%と高い評価をいただいた。感染症による制限もなくなり、音楽活動や話し合い活動、校外学習等、活動が元に戻ってきた。行事の改善を図りながら、豊かな体験・経験につなげていけるよう今後も取り組みを継続していく。
10	学校について⑥ ⑩学校は、保護者からの相談や要望に適切に対応している。	58%	39%	2%	1%	3.5	3.5	0.0	・C/D評価の割合が昨年度より低くなった。(6%→2%、2%→1%)児童や保護者の皆様にとり、相談しやすい環境づくり、気持ちに寄り添える環境づくりを引き続き大切にしていく。また、スクールカウンセラー等外部の専門家への相談体制も充実させ、チーム若草南小として取り組んでいく。